

2014年10月29日

## 国立がん研究センター中央病院における緩和ケア研修会の取り組み

国立がん研究センター 加藤雅志

国立がん研究センター中央病院では、スタッフ、がん専門修練医、レジデント、研修期間が1年を超える短期レジデントの緩和ケア研修会受講率<sup>\*</sup>は、平成26年9月現在72%(175/243)であり、平成26年度末には94%(227/242)を見込んでいる。

緩和ケア研修会受講率を高めるために、病院長のリーダーシップのもと、様々な取り組みを実施している。

1. 対象となる全ての医師に年度内に受講を促し、受講予定を登録させる。
2. 研修会を受講しやすい環境を作る。
3. 参加者が受講しやすいよう開催日程を工夫する。
4. 魅力あるプログラムになるように工夫する。

以下、取り組みの詳細について述べる。

国立がん研究センター中央病院では、平成25年度に荒井病院長が、平成26年度内に対象となる医師全てが緩和ケア研修会を修了することを目標に掲げた。平成25年度は4回、平成26年度はすでに3回開催し、さらに2回開催する予定である。これらの研修会でほぼすべての医師が研修を修了する見込みであり、有効だったと考えられる取り組みを紹介する。

### 1. 対象となる全ての医師に年度内に受講を促し、受講予定を登録させる。

昨年度末に、今年度の5回の研修の全日程を確定し、早い時期から医師に日程を周知した。今年度に入った時点で、今年度中にいずれかの研修会もしくは外部の研修会に、必ず参加するように荒井病院長から指示が出されるとともに、繰り返し案内をしている。

未受講の全医師が、必ず今年度中に修了するように、対象者に年度内の参加予定を登録させている。研修参加予定を未登録の医師に対しては、事務から、個人宛に繰り返し連絡し、必ず予定を登録するように催促している。

また、診療科長には、科内の未受講者リストを送り、受講を促すようにしている。

<sup>\*</sup> 病理科・臨床検査科、麻酔科、総合内科・歯科・がん救急科は受講率の算出から除く

## 2. 研修会を受講しやすい環境を作る。

研修会の直前には、毎回、当院の職員に、緩和ケア研修会の受講者一覧と研修期間中は研修に専念できるように配慮を促す内容のメールを送っている。受講生が病棟業務などを気にせずに、研修に参加できるよう環境を整備するようにしている。

## 3. 参加者が受講しやすいよう開催日程を工夫する。

受講生のニーズを踏まえて、「金・土パターン」と「土・日パターン」の 2 種類の研修プログラムを用意している。

開催時間はプログラムの組み方で毎回違うが、およそ、

「金・土」の時は金が17:30-21:30、土が9:00-19:30

「土・日」の時は土が9:00-20:00、日が9:00-12:30となっている。

参加者数は、「日曜日がフリーになる」ということで、金・土パターンの人気が高い。

## 4. 魅力あるプログラムになるように工夫する。

普段から医療用麻薬を処方しているがん専門医でも興味深く学ぶことが多くあるように、魅力あるプログラムになるように工夫している。

具体的には、放射線治療、IVR、意思決定支援、心理社会的支援(MSW)、医療用麻薬に関する注意点(薬剤師)などをオリジナルのセッションとして追加している。

また、当院の医師は「がん告知」時のコミュニケーションよりも、「抗がん治療の中止」のコミュニケーションに困っているという意見を踏まえて、オリジナルシナリオを作って研修を行っている。

このようにさまざまな工夫のもと、緩和ケア研修会を開催してきているが、病院長自らが研修会を受講し、病院長が受講を促すように強くメッセージを発してきたことが、高い受講率を実現できた最大の要因と考える。